

あの木内さんも勢いを認める中国を再考してみる

「我を通す」と「信念を貫く」――。

この言葉の違いを改めて理解する機会があった。農業経営者読者の会全国大会の会場で、本誌にコラム連載中の（農）和郷園の木内博一さんも中国の発展の勢いはすごい、と発言された。そしてある方が質問をした。「中国人はすぐライバル会社に転職したりして、信頼できないと聞きますがどうなのでしょう？」

木内さんはご本人のコラム「和のマネジメントと郷の精神」を利かせ、その質問にこう答えた。「一番危ないのは中国人ではなく、日本人です」。つまり中国の現地法人を立ち上げ、現場の仕事を行なう中国人と、お金を扱うマネジャー的存在の日本人では、明らかに後者が危険であると私は解釈した。

ご本人は覚えていないと思うが、2005年1月26日に北海道の野菜農家と和郷園を訪れ、木内さんの娘さんの名前が書いてある野菜加工工場などを視察し、帰り際に木内さんが白いAMG（記憶が正しければ）のスモークのかかった左ウィンドウを開け「北海道からご苦労さまです」と挨拶を交わしたことがある。で、再びウィンドウが閉まると、堅いサ

スペンションのはずのAMGが5cmほど後部車体を下げるくらい加速して走り出したが、さすがトラクション・コントロールが利いていたのか、タイヤからスモークが出ることはなかった。その華麗な走りを見て「お主、昔やってたな」という直感の外れていなかった様だ。

今回はちよつと視点を変えて中国を斜めに見ることにする。「香港は香港人が頑張ったから発展したのです」。

香港出身の往年のアイドル、アゲネス・チャンが以前TVでこう力説していた。これは1997年に英国から中国に領土・主権・国民が返却された時の話で、「なぜ香港はあれほど発展したのですか？」の問いに対するものだった。では、ポルトガルが支配したマカオの繁栄も中国人だけが努力した結果だと言うのか？

誰もが郷土を愛するのは当たり前前であるが、香港は誰が考えても英国の影響力が99年間存在したからであって、中国人だけの努力、ではなかったのは歴史的な事実である。

Vol.28 我也行く？心の命じるままに



宮井能雅

1958年3月、北海道長沼町生まれ。現在、同地で水田110haに麦50ha、大豆60haを作付けする。大学を1カ月で中退後、農業を継ぐ。子供時代から米国の農業に憧れ、後年、オーストラリアや米国での農業体験を通して、その思いをさらに強めていく。機械施設のほとんどは、米国のジョンドイヤ代理店から直接購入。また、遺伝子組み換え大豆の栽培を自ら明かしたことで、反対派の批判の対象になっている。年商約1億円。

Illustration by Kazushige Akita

それにしても、英国と

いう国はすごい。アヘン戦争で多くの中国人を麻薬中毒にさせ、中国との武力戦争に勝ち、99年間統治して、当時、そして現在においても中国国内では英国批判がほとんど存在しないのだから、本当に魅力のあるジョン・ブル魂を持った国家なのだろう。ちなみにアゲネスの『ひなげしの花』はアヘンが作れる種類と同

オレにも 言わせる!

北海道長沼発 ヒール宮井の憎まれ口通信

じヶシ科だそうだ。何かを意図するのか、単なる偶然なのか。

そんなことを踏まえて、こんな提案をしたい。景気が冷え込む北海道ではあるが、南半球のオーストラリアからニセコに年間5万人のスキーヤーが来て、中には住宅を建てる者もいる。おつ、ピーンと来た方もいるでしょう。一番景気の悪い**夕張**を

オーストラリアに99年間貸すと言うのはどうだろうか。そこで生まれた住民はオーストラリア国籍が取れるとなれば、貞操観念の高い大和撫子のおねーちゃんでも腰を振ってたくさんやつてくることは間違いない。はずなのに、残念ながら、そんなことも考えられないのが、富を求めない左翼の北海道民である。

それにしても本当に情けない。今でも言われる30万を超す現地の住民が日本兵によって虐殺されたと主張され続けている。しかし数週間と言う期間で30万人よりも少ない住民をどうやって殺し、誰が埋葬し、どこに埋葬したのが判明していないのに、中国メディアでは「小国、小日本」である。つまり同じ占領されるのだったら、欧米諸国の方がましだと考えると、私と同じように金髪・ブルーアイ好きなのだろう。なほほど、同類の気持ちは分かってない。将来、日本人の外見が金

髪・ブルーアイになれば、将来面白い歴史を作れるかもしれない。

見上げれば何も見えず 振り向けば誰もいない?

ところでメディアが言う様に中国が本場に素晴らしいならば、なぜ中国に住む中国人の個人名が登場しないのか。

私は高校2年から米国に行き来して34年になる。そして毎年、普通に家庭に泊まらせてくれる多くの現地の友人がいるが、なぜか中国大陸ファンの日本人の会話に一般家庭の話が出てこない。話はくどくなるが、領土、主権、国民があつて初めて国としての存在が認められ、国際社会でデビューできるものと認識している。ところがTVや新聞を見ても一般家庭の王さん、張さんの話は全く出てこないのは変だ。国家、上海万博、中華料理としての中国ばかりが出てくるばかりである。

果たして中国大陸ファンの方々ほどのくらい現地の中国人と個人的にお付き合いをされているのか。個人と個人のつながりがあつて初めて地域、そして、組織、国家同士の信頼関係が存在する、と私は北海道の小学校で教育を受けたつもりだが、最近の子供たちは嫌米主義、大陸左翼義務教育のおかげで国家の信頼度に

対する趣味・嗜好は変わってきたのか。

ある時、中国大陸ファンの女性は私にこの様に発言した。
「最近では発展してきて辺境の地がなくなり、開発され尽くされてつまなくいじ」

実に意味深い話だ。自然が多く未知の国、海岸沿いの都市では外国車に乗り、内陸では洞窟暮らしの中国がよいということか。中国は所詮貧しくてよいと言っているのか。どちらにしても、私には理解できなかつた話で、地方の農村の住民が貧しくて国家が魅力的になりうるのか、はたはた疑問である。

名の知れない町でもプロロードバンドや衛星放送を通じてイチローの試合や**プレイボーイチャンネル**を見られる一方、一歩外に出ると大自らが残る米国とは違うようだ。とはいえ、以前訪れた上海の故宮にはケントッキー・フライドチキンが、万里の長城にはマクドナルドがあり、その組み合わせは似合わないと思うのだが、むしろその多様性を認める中国は懐が深いとも言えるかも。
実は私の住む町にも中国資本が迫っている。聞くところによると、ある牧場に売買の話が持ち込まれたが、条件が合わず流れた。こんな話は池袋界隈の話では終わらず、これから

も怒涛のごとく押し寄せるだろう。その結果、中国資本が日本の物件を購入することによって中国人が多く住み、彼らや彼女たちの文化が目立つようになるのだろうか。多分その時に日本人としての**アイデンティティ**と**愛国心**が湧き上がって、幼稚園でも日の丸が掲げ上げられ、君が代が就業前に声高らかに歌われるかもしれない。

さて冒頭の「我を通す」と「信念を貫く」とはどうやらまったく違うようだ。北海道・大空町(旧東藻琴)に住む馬渡智昭さんがお寺の坊さんから次のように説法をいただいたそう。曰く「他人様から見ると、自分が好き勝手やっていることは同じだ。しかし、ふと振り向いた時に誰もないのが『我を通す』。しかし、木内さんの様に『信念を貫く』人は、ふと、振り返ると並んで人がついて来る」。そういえば、全国大会で名刺交換のため30名くらい並んでいたっけ。

そうだ、私がいとも「関係法令がしっかりしているのだから消費者との対話は無駄である」「早く組換え作物導入を進めなければならぬ」と話しているが、ふと振り向くと……いや、そんなのがっかりすることはないだろう。私には金髪・ブルーアイの仲間がいるのだから。みなさんが振り向いた時には誰がいますか?!